

ステークおよびワードの緊急時のための計画ガイド

ステークおよびワード評議会は、緊急時対応計画(『手引き1

ステーク会長およびビショップ』[2010年], 5.1.3と5.2.11参照)を作成または更新するために、この計画ガイドを用いることができます。ステークおよびワード計画は地域の計画に合わせたものであるべきです。指導者は緊急時の対応活動を支援する福祉スペシャリストを招いてもよいでしょう。最も効果的な計画は簡潔なもので、複雑すぎないものです。評議会は定期的に計画を見直し、更新するように推奨されています。

ステップ1: 起り得る災害を特定する

自分の地域で起こる可能性が最も高い災害(天災または人災)のリストを作成する。一つ一つの災害に対して必要となるであろう具体的な対応行動を特定する。(例えば、地震、火災、洪水、ハリケーンなどの災害によって家屋が損壊した場合、重要な行動の中には一時避難所を見つけることが含まれるだろう。)

ステップ2: 重要な情報収集する

以下の情報を集積し、更新する。

- ステークまたはワードの管轄区域内に住むすべての会員と宣教師の連絡先。
- 地域の地図、会員と宣教師の住居を含むもの。
- 身体障がい者、高齢者など、特別な助けを必要とする会員のリスト。
- 被災時に不可欠となる機材や技術(医療、緊急対応など)を持つ会員のリスト。
- 公共安全機関(警察、消防、医療など)の連絡先。
- 食事、避難所、医療など、緊急支援を提供する地域社会の団体(赤十字、赤新月など)の連絡先。
- 地域の福祉指導者たちの連絡先、および(可能な地域においては)地元の教会福祉本部の連絡先。

ステップ3: 割り当てと手順を概説する

評議会在以下の業務を組織し実行する方法を計画する。だれが何の責任者であり、どのような手順を踏むかを確認する。緊急事態が起きたとき、評議会の評議員が集合する第一の拠点と、それに代わる場所を示す。

災害に備えて

- 公的機関および一般の救済団体と協力関係を築く。

被災直後

- 会員と宣教師の状況を確認し、報告する。
一般的に、会員の必要についての報告はホームティーチャーから定例会指導者に寄せられ、さらにビショップに伝達される。ビショップはそれらをステーク会長に伝え、ステーク会長は地域指導者に報告する。
- 離れ離れになった家族が互いの居場所を見つけ、再会できるように助ける。
- けがをした人や、そのほかの健康上の問題を抱える人が、医療処置を受けられるようにする。
- 公的機関および一般の救済団体と支援種別を調整する。
- 基本的な食糧やサービスの必要を見極め、調達する。例えば、食糧、避難場所、衛生用品、衣類が会員やその他の人に提供されるようにする。地域の福祉指導者たち、および(可能な地域においては)地元の教会福祉本部に、物資とサービスの供給を支援する割り当てを与えてもよい。
- 教会の建物と資産の状況を確認し、報告する。

被災後の一定期間

- 家屋や所有物が損壊した会員、心的外傷を負った会員、生活の糧を失った会員を支援する。
- 公的機関および一般の救済団体とともに、教会が地域社会のニーズに協力できる機会を特定し、そのような機会に応じる。

ステーキおよびワードの緊急時のための計画ガイド

ステップ4: 緊急連絡方法を特定する

被災時に電話や携帯電話が通じなくなった場合、また、道路が不通になった場合に利用できる、別の連絡方法を特定し、計画する。それには以下の方法が含まれる。

- インターネットによる連絡(電子メール, ソーシャルメディア, インターネット電話技術などを含む)
 - 携帯メール(音声サービスが不通でも, 携帯メールは通じることがある)
 - アマチュア無線
- 直接コンタクトする。徒歩、自転車などで(専任宣教師も協力できる。)

必要に応じて、神祇指導者は自分のユニットの会員たちを連絡スペシャリストに招いてもよい。スペシャリストに適しているのは、連絡に必要な装置を自分で所有し、連絡に関して有益な経験を持つ人であることが多い。

ステップ5: 会員の備えを奨励する

緊急時への備えを行うように、そして『すべての必要なものを用意しなさい——家庭防衛』(04008

300)『すべての必要なものを用意しなさい——財政管理』(04007

300)に簡潔に述べられている勧告に従うように、会員たちを定期的に励ます。励ます機会には以下が含まれる。

- 定員会と扶助協会の集会。
- 聖餐会やステーキ大会の話。
- ホームティーチングや家庭訪問のメッセージ。